

論壇

ワーケーションの実践

大学の研究者というのは、昔から行動を縛られるのが好きではない人種が多い。私ごとで恐縮だが、なぜ研究者になろうとしたのかというと、その動機の一つに、社員になると自分の時間が縛られてしまうと思ったことがあった。

実際、大学に就職してからも、教室や研究室にいる時間よりも、外を飛び回っている時間の方が多かった。原稿を書いたり論文を読んだりするのでも、研究室にこもっているよりも、喫茶店に場所を移した方が効率が上がると感じた。気分転換を求めたのだろう。

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

家族と休暇で旅行に出かけたときでも、隙間の時間に仕事をしたりしたものだ。休暇の一部の時間を仕事に割くことをワーケーションと呼び、最近話題になることも多いのだが、私は40年前から実行していたことになる。

こうした私の行動は周りにはあまり評判が良くなかったかもしれない。こうして私の行動は周りにはあまり評判が良くなかったかもしれない。

出動簿で管理するのは自由な研究

働き方を見直すチャンス

「伊藤さんはいつも大学にいないですね」と、嫌みを言われたことも多かった。出版社の編集者は、私の本の帯に「アームチェア・エコノミストではなくウォーキング・エコノミスト」と書いてくれた。褒められているのか、けなされているのか分かりにくい呼

び名だ。そうした時代なのでよく覚えていいるが、私が当時勤めていた東大でも別の組織では教員は朝出勤し、夕方に帰宅するときに押印するよう求められていた。自分の学部ではそうした縛りがなくてよかったと思っただけで、自由な研究

であった。朝になるとパソコンに登録し夕方まで通勤簿の代わりにパソコンで時間管理される。

な障害が出てくる。在宅勤務を時間で管理しようとする企業がまだに多いというのはそれしか管理ができないからだろう。効率的に仕事をすれば残業がなくなるので所得が減ってしまうというおかしな話もよく聞く。

時代は大きく変わった。新型コロナウイルスで在宅勤務が増える

と、時間で仕事を縛ることに疑問を持つ人が増えている。在宅勤務

残念ながら現実はその簡単ではない。時間で労働を管理する仕組みが定着している日本では、柔軟な働き方にシフトするといろいろ

間での管理ではうまくいかないはずだ。全ての仕事は大学の研究者のように回るわけではないが、働き方が大きく変わりつつあることをより多くの人に意識してほしい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。